

都市と地域社会の持続可能性を向上させる

シティプロモーションの可能性

―愛知県内の自治体の動向を手がかりに―

名古屋市立大学大学院人間文化研究科 三浦 哲司

わが国の自治体では現在、シティプロモーションへの注目が高まっている。背景には、本格的な人口減少時代の到来、あるいは地方創生の潮流における自治体間競争の激化を指摘することができる。

シティプロモーションは「都市や地域の売り込み」（牧瀬稔の定義）を意味し、第一のねらいはまちの知名度の向上にある。なぜなら、まずは多くの人々にまちの存在を知ってもらわなければ、交流人口や定住人口の増加が見込めないからである。

こうしたシティプロモーションについて、本プロジェクトでは「そもそも、シティプロモーションとは何か」「愛知県内の自治体におけるシティプロモーションの動向は、どのような実態にあるのか」という問題関心に基つき、主に愛知県内の市町村を対象にして調査

研究を進めてきた。今年度の主な研究活動は、県内市町村におけるインタビュアー、および先進地の視察のふたつである。

このうち、インタビュアーに関しては、津島市と知多市でインタビューを実施し、二市の取り組み状況をヒアリングした。その結果、二市ともシティプロモーションを実践し始めた段階で、今後にさまざまななかたちで本格的な取り組みを推し進めていく予定であることが確認された。二市のうち、津島市では担当部署を設置し、庁内にシティプロモーションの発想を浸透させている状況にある。また、知多市では「知多市シティプロモーション基本方針」を策定し、シティプロモーションCMコンテストなどに取り組みは始めている。

先進地の視察に関しては、わが国のシティプロモーションの先駆

けといわれる千葉県流山市を訪問した。流山市は千葉県の北西部に位置し、東京都心から電車で二〇分という好立地にあり、現在も豊富な自然が残っているベッドタウンである（まちのコンセプトは「都心から一番近い森のまち」）。このまちでは二〇一一年に「流山市シティセールスプラン」を策定し、これに沿って各種イベントの開催や首都圏でのPR活動を展開してきた経緯がある。こうした流山市

に出向き、駅周辺のマンション開発の現場の視察、市内の大学の研究者や住民との意見交換、などを行なった。その結果、ここ数年で人口が急増し、現在もマンション建設が続いており、駅周辺のまちの姿が大きく変容している動向が確認された。一連の視察および意見交換からは、シティプロモーションを展開した結果として人口

が急増した際に、自治体行政としていかに対応するかが問われる、という示唆を得ることができた。ここまでみてきたように、今年度の研究ではシティプロモーションの実態把握に力点を置いたために、記述的な内容にとどまっている。ただ、愛知県内の動向からは、各市町村が何らかのかたちでシティプロモーションに着手している状況はみえてきた。現在は大きく注目されているシティプロモーションであるが、今後は一時のブームで終わらせることなく、いかにしてまちの魅力を発信し続けていくかが各市町村には問われることになる。来年度以降の研究では、県内市町村のより詳細な実態把握に取り組むとともに、豊橋市や岡崎市といった県内の先駆事例の検証にもつとめていきたい。